

2024.3.21 掲載

耕作放棄地を活用し 応援者を増やしなが 地域活性化をめざす

日本海倶楽部ザ・ファーム

SELP Vision 2030より、主に実現したチャレンジ

2



4



事業所紹介

所在地	石川県 能登町
法人名	社会福祉法人 佛子園
施設・事業所名	日本海倶楽部ザ・ファーム
事業種類	就労継続支援A型・B型
主たる障がい	知的障がい、精神障がい
定員	A型20名、B型20名

● 農福連携の実績をベースに 新たな産業づくり

日本海倶楽部ザ・ファーム(以下、ザ・ファーム)は、石川県能登町で1998年から地ビール醸造とビアレストランの経営を行っている就労継続支援A型・B型の施設です。クラフトビール事業、地元特産の野菜生産など、地域に根差した農福連携事業は、地元で観光資源と活気をもたらしました。現在進行中の挑戦は、地域課題に向き合いながら新たな特産品づくりをめざした、ヒツジ飼育の取り組みです。

石川県能登町では、もともと第一次産業が盛んでしたが、農業者の高齢化や後継者不足により農業人口が減少していました。そして、農業人口の減少による、耕作放棄地増大の抑止が課題でした。耕作放棄地が増えることは、災害時の危険性が高まる、廃棄物の不法投棄の原因になる、野生動物の行動圏となる、など地域全体のリスクにつながります。そこで、地域の困りごとに向き合いながら、新たな産業を生み出すために開始したのが、耕作放棄地を活用したヒツジ飼育とヒツジの飼料づくりでした。



● 農機具を改良し、わかりやすく、使いやすい設計に

この事業は、県立大学2校(石川県立大学、石川県立看護大学)との連携事業でもあり、石川県立看護大学が行っていた、ヒツジ飼育によるアニマルセラピー研究に協力したことが連携のきっかけになりました。

ザ・ファームは、大学関係者をはじめとして、地元企業、地域の方々といった多くの人の協力を得て、取り組みを進めています。

知的障がいや発達障がいのある利用者が作業しやすいための工夫として、利用者が使いやすいように改良を施した農機具を利用しています。通常の農機具を使用する場合、機械操作やレバー操作の煩雑さ、騒音の大きさに対して苦手意識をもつ利用者が多く、作業のハードルになることが想定されました。そこで、利用者が操作しやすいように、スイッチやレバーの数を減らし、動力音を抑えるなどの改良を行いました。

こうした農機具の改良は、大学や地元企業の協力によって進めることができました。その結果、扱いやすい農機具は、農作業の多くを担う農業者にとっても扱いやすくなり好評だそうです。



● 「ごちゃまぜの福祉」が生み出す支えあいの関係性

就労継続支援では、いかに地域のために持続可能な取り組みをするか、が重要です。事業を通して、人口減少、耕作放棄地の増大という地域住民と共有する問題に取り組むことで、利用者の働きが地域貢献に直結しているからです。

またザ・ファームは、事業を行ううえで、地域に関係人口を増やすことを重要視しています。福祉関係者に留まらず、他業種の人たちとも関わりあいをもち、関係人口を増やす「ごちゃまぜの福祉」のなかで、事業所として居場所を作り、役割を見つけると、応援してくれる人が確実に増えていきます。

農業経験のある地元のヘルパーさんの力を借りていますが、安定的な事業継続のためという目的だけではなく、農業の技術や知識を障がいのある人たちに伝承するという目的が生まれました。同じゴールに向かってともに歩み、協力体制、支えあ関係性に変化して、多くの人との関わりのなかで役割をもったことは、利用者のもやりがいに結びついています。



※取材は2023年11月末に行いました。